

「再生可能エネルギー」

木質ペレットの利用促進で、イマドキの木質バイオマス生活を」



株式会社Hibana
代表取締役
松田 直子氏

●会社概要

社名 株式会社 Hibana
設立 2006年5月
事業内容 森林バイオマス機器の導入支援、調査・研究および各種情報提供サービスなど
資本金 600万円
所在地 〒604-0931
京都市中京区寺町通二条下ル榎木町98-7
京都ペレット町家ヒノコ内
TEL:075-241-6038
FAX:075-741-8023



お土産に人気の火鉢や七輪

山の自然を守りつつ木を有効活用しよう

当社は、森林バイオマスの販売や普及のためのPR活動を行ったり、適切な情報やサービスをお届けしています。バイオマスとは、生物 (bio) 由来の物質 (mass) のことを指し、中でも木が由来の資源を森林 (木質) バイオマスと言います。木は、素材そのものとして利用だけでなく、燃焼させてエネルギーとして利用されています。当社では、具体的には、木の燃料や道具・木工品などを扱っています。

世界の多くの国では、伐採により森林が減少していますが、日本は森林が国土の約7割を占め、森林資源が豊富にあります。しかし、国内の森林を利用せずに海外から木材を大量に輸入する為、国内林業が低迷し、地球温暖化等の環境問題を引き起こしています。日本の林業は、高齢化や外国産材の参入により従事者が減り、間伐作業が追いつかず、森が荒れ、大災害が起きています。木を切り手入れをすることは、森林が整備され、土砂崩れを防ぎます。また、動物たちのすみかやエサを生み出し、美しい豊かな森へ再生するだけでなく、林業の活性化につながり、新たな雇用が生み出されます。そして間伐材は、薪や炭、木質ペレットなどとして有効利用されますので、持続可能な社会づくりが可能になります。木が使われずに余っている日本では、その利用を進めることが、森を元気にし、私たちの暮らしを豊かにすることにも繋がります。

当社は、『あたたかくて優しい火の良さを見直し、木を使うことで森を元気にしたい』という思いを形にするため、アンテナショップ「京都ペレット町家ヒノコ」をオープンしました。火鉢・七輪・燃料などの販売、木質ペレットを使った今のライフスタイルにあった環境にやさしい暮らしを提案する場として、市民の皆さまと京都の森をつなぐ拠点となるべく、運営しております。

100%「木」の再生可能エネルギー

「木質ペレット」は、間伐材や木くずを破碎・圧縮して粒状に固めたもので、接着剤などの添加物は一切使用しておらず、100%木でできています。また、燃やした際に排出される二酸化炭素は、もともとは木が成長過程で大気中から吸収・固定したものであるため、大気中の二酸化炭素の増減に影響を与えません。木質ペレットを石油やガスなどの化石燃料の代わりに使うことは、地球温暖化の防止につながり、伐採後に植林するという循環を繰り返せば、再生がいくらでも可能な資源

です。京都の森から生まれた木質ペレットを使うことは、エネルギーの地産地消、林業の活性化につながると考えます。

炎のゆらめきを楽しみながら、環境にいい暮らしを

木質ペレットは認知度が低く、「高い」、「古い」、「危ない」というイメージがあります。しかし、ここ数年はお湯を使う民間企業やお風呂屋さんを中心に、ペレットストーブやペレットボイラーの普及が進み、カフェやピザ屋など一部の飲食店でも、「木を使用して調理すると美味しい」と利用が増えています。



暖炉風の大型のものからリビングに最適なシックなデザインのものまで、様々な種類のペレットストーブを販売している

もちろん家庭でも木質ペレットは利用でき、一般的にペレットストーブの燃料として利用されます。ペレットストーブは、既に欧米各国で普及しており、日本でも30年ほど前から販売されています。地球温暖化対策

に貢献するなど環境問題から注目され、電力を必要としない機種もあることから防災面でも強く、ここ数年は防災の意識で興味を持たれる方が増えてきました。機能面では、お湯を沸かせるものやスイッチ1つで点火・消火ができるもの、暖房と調理が一体化したものなど多種多様です。機種により給排気口の設置は必要ですが、大掛かりな煙突工事は不要なので街中でも利用でき、マンションでも設置可能です。着火、温度調節、燃料の補給が自動でできる機種が多く、使いやすさは石油やガス暖房機とほとんど変わりません。木質ペレットは、取り扱いが簡単で安定燃焼するので誰でも使いやすく、保管場所をとりませんし、灰の掃除も灰桶を取り出して捨てるだけと簡単です。利用者からは、炎のゆらめきが見えて温かく木のぬくもりを感じ、家族が一堂に集まって和やかに楽しく過ごせるようになったなどといった声が聞かれ、災害を体験してオール電化に疑問を持たれるようになった方や、環境に優しい上にオシャレで新しいと感じる若い世代にどんどん普及しつつあります。

リスク面として、初期コストが高く、消し忘れや火が危ないなどと言われることはありますが、ランニングコストは安く、遠赤外線での体の芯から温まりますし、燃料漏れや爆発の危険性はありません。最大の障害は知られていないことです。知らないから危ないと思うだけで、正しい知識を身につければ

何も危ないことなどありませんので、イベントを通して正しい知識をお伝えしたり、適切な情報を発信しています。

京都議定書採択の地で

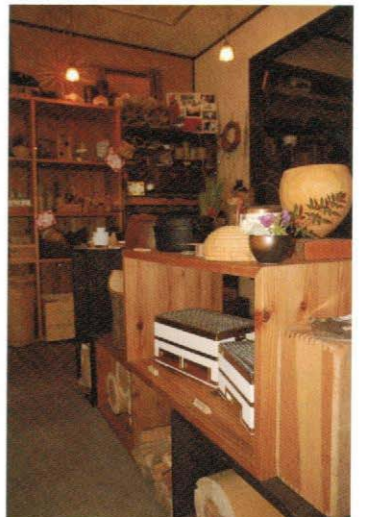
環境モデル都市に選ばれた京都市は、「低炭素社会」「循環型社会」の構築を目指すための様々な取り組みを行っています。その取り組みの一つに、木質ペレットの普及啓発事業があり、ペレットストーブ購入費用やペレットボイラー導入を助成し、取り入れやすい環境を作っています。ペレットストーブは、公共施設では20件程導入されており、昨年小学校にも初めて導入されました。また、鷹峯小学校では、夏期の冷房、冬期の暖房として併用できる吸収式冷温水機を導入しています。ペレットボイラーは、建物全体を冷・暖房することができ、環境に優しく、燃料価格が安定、耐久性が高いなどメリットが多いので、これから新しく建てる施設にはどんどん取り入れられることを期待します。

新たな可能性

バイオマスは、発電より熱利用効率が良いので、世界的にストーブ、給湯、床暖房などに多く利用されています。ヨーロッパでは、再生可能エネルギーとして木質バイオマスが注目されており、アメリカやカナダでもペレットは普及しています。しかし日本では、再生可能エネルギーとして太陽光が注目されており、ペレットはほとんど普及していません。今後の普及を図るには、森林やバイオマスに関する分野におけるPR活動や、学校での教育活動などが必要です。

技術は日々進歩しており、平成23年に、京都大学と大阪ガスが共同で、日本で初めて「木質ペレット」と「太陽熱」という2種類の再生可能エネルギーを用いる空調システムを導入しました。新システムは、経済性を考慮しつつ二酸化炭素削減効果を最大化するための最適制御を行う共同実証として、話題になりました。木質バイオマスと太陽熱、さらにガスという複数のエネルギー源を組み合わせることによる複合冷暖房システムの開発からも、今後様々な可能性が期待できます。

現代の生活に合ったスタイルで、いかに木質バイオマスを取り入れるかをテーマに、一生の仕事として活動を行っています。



薪炭などの燃料や木工品、環境教育ゲームなどが並ぶ店内